

断面 20 Bl_E

弱湿性黒色土 その2



母材料：火山灰

採取地：栃木県塩谷郡塩原町

矢板事業区 111 林班は小班

海拔高：880 m

地 形：熔岩流地の凹部

方 位：W

傾 斜：7°

林 相：ヒノキ造林地にアカマツ、ミズナラが侵入。

断面記載：

L 1~2 cm ナラ、アカマツ、草本の落葉。

F 痕跡

A1 15 cm 黒色(10 YR^{1.5}/1), 腐植にすこぶる富む, 礫なし, 砂質埴壤土, 団粒状構造, 軟, 湿, 根あり。

A2 30 cm 黒色(10 YR^{1.7}/1), 腐植にすこぶる富む, 礫なし, 砂質埴壤土, カベ状, 堅, ナイフ痕は光沢あり, 湿, 根あり。

A3 10~18 cm 黒色(10 YR³/1), 腐植に富む, 礫なし, 砂土, カベ状, 堅, 湿, 根あり, 軽石質, スコリア質砂粒に富んだ層である。

採取年月日：1964年11月13日

凹部で水分の供給の多いところに分布する黒色土である。A₁層は団粒状構造が発達しているがA₂層以下はカベ状となり、保水量は多い。火山地帯であるので、一様に黒い層が発達しているように見えるが、材料となった火山灰は何回にも分かれて堆積している。下層には軽石質砂に富んでいるので、理学的性はよいように見えるが堅い。その下に埋没したA層がある。粘土鉱物ではアロフェンが多い。アロフェンは火山灰土壤に多い例が多く一般に保水力がたかい。

林相は、アカマツ、ヒノキ、コナラ等の混交林になっていて、地床にはクマイザサ、トダシバ、ヨモギなどが多い。カラマツは根腐れをおこしやすく、ヒノキはトックリ病になりやすい。造林樹種としてはスギが考えられるが、表日本では木があばれやすく死節が多くなる可能性がある。裏日本ではスギの成功例が多い。



採取地の地形

層位	土壌中の細粒 (0.2~0.1 mm) の鉱物 100 分比							土 壌 中 の 粘 土 鉱 物				
	石 英	長 石	火 山 ガラス	軽石粒	角閃石	輝 石	磁鉄鉱	アロフェン	ギブサイト	ハロイサイト	メタハロイサイト	14~15 Å 鉱 物
A ₁	13.3	8.4	35.6	27.3	2.1	11.2	2.1	+++	×			×
A ₂ 上	18.1	11.2	27.6	31.0	1.7	9.5	0.9	++++ +	+			
A ₂ 下	10.8	15.1	4.3	51.8	2.9	12.2	2.9	++++	×			+
A ₃	12.5	29.5	2.3	19.3		33.0	3.4	++++	×			+